



# 納豆, 甘納豆, ピッツァ

*The Third Phase*

永田円了

私たちはどのような意識をもって人間関係を生きているのだろうか。またどのような意識をもてば、この複雑な人間社会を自他共に活かす関係で生きて行くことができるのだろうか。今回は三つの舞台を用意した。納豆、甘納豆、ピッツァ、で象徴される心象風景とは如何なるものか、検証する。

## 納豆型人間関係

一言でいえば、“くっつき”意識で構成された関係である。皆と同じことをしている限り、居心地がいい関係が築ける。しかしいったん人と違うことを始めると、この集団でははじき者となる。常識、世間、集団が人を仕切り、人の目が必要以上に気になる意識地場、へたをすると“人の目地獄”に入り、大切な自己を埋没させてしまう悲しい環境である。

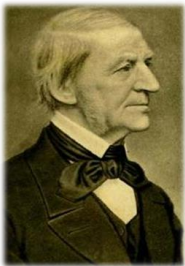


## 甘納豆型人間関係

人と同じことでは満足できない。俺は俺の、私は私のやり方で、と自分自身を最優先させる世界。チカラのある人はどんどん伸びるが、最終的には燃え尽きてしまい次の代が育たない。“私の考え”“私の感情”“私の経験”のみが仕切る世界は、迫力はあるが温かさは見あたらない。また競争心はあっても感動が伴わないので、仕事バリバリ、家庭置き去りの男は、寂しい老後を送る。

## ピッツァ型人間関係

ピッツァは、生地の上にいろんな素材をのせて焼く。それぞれの素材は、それ自身の個性を失うことなく生地の上で同居する。焼き上がり、口に入るときのピッツァは、異なった素材がうまく溶け合い、絶妙な味わいをつくる。ピッツァで象徴される人間関係も、人それぞれがもつ個性が、他者との関わり合いでより豊かな深みのある味わいとなって発揮される。



最後に、ラルフ・エマソンのコトバを三つ味わってみたい。

- ① 孤立は使いものにならない。でもただくっついていてだけの関係は、もっと悪い。致命傷だ！  
“Solitude is impractical and yet society is fatal.”
- ② 人生は、自分を見つけるためにあるのではない。自分をクリエイイト（創造）するために存在するのだ。  
“Life isn’t about finding yourself. Life is about creating yourself.”
- ③ よく笑い、人から感謝され、身近な人の愛を感じ、ただ1人のひとでもいいから、あなたに心からありがとう、と言ってくれたとき、あなたの人生は成功したと言えるのです。

“To laugh often and much; to win the respect of intelligent people and the affection of children... to leave the world a better place... to know even one life has breathed easier because you have lived. This is to have succeeded.”

### <事例 DVD>

NHK スペシャル『無縁社会』1/31/2010、社会との接点を失う  
美輪明宏、三島由紀夫を語る 第一から第二のみちへ  
名門東芝の凋落 / 山一証券の破綻 納豆集団の崩壊  
黒澤明監督『乱』 秀虎、家督を譲る、甘納豆が自己崩壊する  
映画「クレイマー、クレイマー」、自己変容して、ピッツァの意識へ  
浅田真央/銀メダル、このジャンプで9点もらえと思った  
兵士達の歌う「花はどこへ行った」 Where have all the flowers gone?  
カタリーナ・ビット/リレハンメル大会（1994年）感動の氷上演技  
マリーネ・ディートリッヒ/ドイツ語で「花はどこへ行った」を歌う

円了のホームページ: [www.enryo.jp](http://www.enryo.jp)

